

平成21年度フェロー認定（36名）



氏名	秋月 影雄
認定時の所属	早稲田大学
抱負	
氏名	石井 弓夫
認定時の所属	株式会社建設技術研究所
抱負	<p>貴会は日本の全分野の技術者を代表する組織として1889年（明治12年）に創立された輝かしい伝統を持つ組織です。貴会のみが日本の全分野を包含する技術者を代表して国内外で社会的発言をなし得る組織であることは言を俟ちません。</p> <p>21世紀に入り、技術を巡る状況はますます変化しつつあり、人々の技術者に対する期待は増大しつつあります。特に地球温暖化、気候変動は人類が始まって以来の災害を人類にもたらす危険がありますが、これに対して適確に対処することは全技術者の義務でもあります。</p> <p>この点について、貴会こそが技術分野の壁を乗り越えて学際的行動を行うことが出来る資格を持っていると考えます。</p> <p>私は、土木学会会員としてインフラ整備に加わり、安全、安心の社会の実現に尽力して来ましたが、その一環として貴会に加入し、活動に参加して参りました。また現在、貴会において国際委員長として国内外の関係団体との連携に当たる他、貴会がアソシエイト会員として加盟する世界工学団体連盟(WFEO)の理事、災害危険マネジメント・タスクグループ長として、防災問題に取り組んでいます。今回フェロー会員としてお認めいただけたならば今まで以上に積極的な活動を行いたいと考えています。</p>
氏名	石田 好輝
認定時の所属	豊橋技術科学大学
抱負	
氏名	井上 大榮
認定時の所属	東電設計株式会社
抱負	

氏名	内田 盛也
認定時の所属	
抱負	
氏名	太田 宏次
認定時の所属	
抱負	
氏名	大橋 秀雄
認定時の所属	工学院大学
抱負	
氏名	岡田 章
認定時の所属	日本大学
抱負	<p>若者の工学系離れが急速に加速しており、私に関わる教育機関においても志 願者の減少、学生の質の低下、意欲ある若手研究者・教育者の育成の困難化、などの問題が顕在化してきている。一方、建築分野においては、地球環境との共生に配慮した空間性能の向上、老朽化する都市・建物のリニューアル、災害者に耐え得るハード/ソフト技術の確立、等多くの工学面で解決すべき課題が山積している。このような状況下において、理論と実践を結びつける工学の役割に対する期待が高まってきている。日本工学会における活動としては、まずは私の専門分野に立脚しながら以下の活動に貢献したいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材の育成について：人類の未来につながる環境の創出に寄与できる、幅広い視野と豊かな創造性を持つ人材を養成する教育のあり方に対する検討を行う。これにはIT社会におけるものづくり思想の伝承なども含まれる。 ・都市・建築の保存・再生：老朽化する都市・建築の長寿命化に関連すべきハード・ソフト技術のあり方に関する検討を行う。 ・耐災について：自然災害から都市・建築・人命を守る防災・減災、災害後の 環境の向上を目指す耐災等について、関連する要素技術を整理すると共に、ハード・ソフト両面から検討を行う。(令和6年8月更新)
氏名	岡田 直之
認定時の所属	九州工業大学
抱負	
氏名	落合 英俊
認定時の所属	九州大学
抱負	
氏名	加藤 信介
認定時の所属	東京大学生産技術研究所
抱負	<p>大量の資源、エネルギーを消費している建築分野においては、地球環境のサステナビリティ(Sustainability、持続可能性)について研究し、サステナブル・ビルディングの普及を推進する責任があると考えていますが、この「持続可能な社会の実現」は、工学系学協会全体の、そして、人類共通の願いであります。このような工学全体にかかわる課題を継続的かつ広い視点からの取り組むためには、工学分野全体を統合する組織である日本工学会の役割は大きいと考えます。</p> <p>このたび創設されることになりました日本工学会フェローの意義は大きく、このフェローに認定され、それぞれの分野を代表される研究者の方々とご一緒に、分野を超えて、工学共通で人類全体の問題、それぞれの学協会の守備範囲を超え境界をまたぐ問題など、学際的な研究課題に取り組み、日本工学会を通じて、社会に貢献することができましたら、研究者の一人としてやりがいのあることと思っています。</p>
氏名	亀田 壽夫
認定時の所属	筑波大学
抱負	

氏名	川島 一彦
認定時の所属	東京工業大学
抱負	
氏名	川瀬 博
認定時の所属	京都大学防災研究所
抱負	
氏名	川村 隆
認定時の所属	株式会社日立製作所
抱負	
氏名	北嶋 弘一
認定時の所属	関西大学
抱負	<p>我が国の科学技術および産業が直面する諸課題に対処するために、それぞれの分野を超えたより強力な学協会間の連携が今後求められることと思います。</p> <p>まず、昨今の若者の理工学離れが顕著になっている中、我が国の将来に向けた技術者・研究者の人材育成に対する取り組みが最も重要であると考えます。</p> <p>さらには、地球温暖化・石油資源枯渇化などがもたらす環境・エネルギー問題に対するビジョンを、アカデミアと産業界が一体となって共有することが重要であり、その牽引役を担う組織として日本工学会が果たす役割は大きいものと考えます。</p> <p>以上のように、我が国の科学技術将来に関するビジョン・クリエイターとして、社会や政府に発信・提言する機能を有する組織となることが望ましいと考えます。</p>
氏名	小林 敏雄
認定時の所属	日本自動車研究所
抱負	
氏名	小柳 光正
認定時の所属	東北大学
抱負	
氏名	佐々木 一正
認定時の所属	北海道工業大学
抱負	
氏名	佐々木 元
認定時の所属	日本電気株式会社
抱負	
氏名	芝山 哲也
認定時の所属	大成建設株式会社
抱負	
氏名	新宮 清志
認定時の所属	日本大学
抱負	<p>「日本工学会フェロー創設の主旨」にも記載されていますように、近年、若者の理工学離れが顕著になり、技術者・研究者の人材育成への取組みが急務であります。また、社会的には新公益法人制度の発足に伴い、学術団体は大きな試練にさらされています。その対応策の一つとして、貴会が長年主張されてこられた学術法人法の制定を検討することは極めて重要なことと思います。また、このほかにも工学全体にわたる重要課題が多々あろうかと存じます。</p> <p>私は、これまで日本建築学会の中で、関東支部常議員等を経て、現在、情報システム技術委員会委員長、関東支部長（理事）等を務めておりますので、上記の課題等にはとても関心を持っています。また、日本ファジィ学会（現：日本知能情報ファジィ学会）において、理事・監事・評議員等を務めてきましたので、これらの学会の経験を貴会の活動において活かすことができると存じます。</p>

氏名	仙田 満
認定時の所属	環境デザイン研究所
抱負	<p>我が国は資源のない国であり、唯一の資源は人材といっても過言ではない。そのような点から工学分野においてもすぐれた人材をどのように輩出するかという点について工学会を通して発信していきたい。</p> <p>①我が国の次世代人材における、すなわち子どもの成育環境そのものの危機的問題に対して、工学会としても国、政府、および国民に対してアピールしていく必要がある。</p> <p>②我が国の工業が繁栄するためにも技術やデザインの分野において極めて高い創造性が要求される。しかしながら現代日本において創造性を喚起しないシステムがまだ蔓延している。それを断ち切り、創造性を喚起する社会システムを構築する必要がある。</p> <p>③日本の工学教育全体にインターンシップ制等の導入を図り、工学界と工業界の連携をより緊密なものとし、次世代のコミュニケーション能力向上や意欲向上のためのシステムを確立する必要がある。</p>
氏名	龍岡 文夫
認定時の所属	東京理科大学
抱負	
氏名	田中 邦麿
認定時の所属	帝京平成大学
抱負	
氏名	種市 健
認定時の所属	東京電力株式会社
抱負	
氏名	竺 覚暁
認定時の所属	金沢工業大学
抱負	
氏名	月館 敏栄
認定時の所属	八戸工業大学
抱負	
氏名	西谷 章
認定時の所属	早稲田大学
抱負	
氏名	原島 文雄
認定時の所属	首都大学東京
抱負	
氏名	菱田 公一
認定時の所属	慶應義塾大学
抱負	<p>日本の工学系の冠学会としての確たる地位を得、さらに工学者全体の包括的組織として位置づけることが必要である。</p> <p>そのために</p> <p>1. 工学系のCPDの学会間を超えた連携のシステム作りを、IT技術を駆使して構築する必要がある。この際、日本工学会が果たす役割は所属学会の会員に利便性があり、資格取得に大きなメリットを有するように、関係各所に働きかけていくことである。</p> <p>2. 邦文での学術出版に関して、共通のインデックスを新たに設け、我が国における日本語での工学分野のノウハウをアーカイブできるシステムを作製したい。欧米の基準となっているインパクトファクターに振り回されることなく、我が国独自の評価基準の下、分野を超えて、これを利用していくシステムにしたいと考えている。</p>

氏名	宗本 順三
認定時の所属	岡山理科大学
抱負	
氏名	最上 公彦
認定時の所属	株式会社竹中工務店
抱負	<p>近年コンプライアンスや技術倫理が大きな社会問題になってきている。従来の技術倫理教育は理的な側面が強く、研究者や技術者がなかなか理解しにくいものであった。私はこれまでの構造設計や研究開発業務の実践から培われた経験や知識を活用した「技術倫理」教育を若い世代に教育したいと考えている。</p> <p>この5年間、府省連携プロジェクト「新構造システム建築物研究開発」を民間企業22社のまとめ役（主査）として推進してきた。このプロジェクトは①超高強度の新鋼材（従来の2倍強度）を用いて震度7クラスの大地震に対しても弾性を保持する建築物を開発すること、②建物の内部空間可変、スケルトンインフィルの機能を取り入れる、ものである。これにより、従来、建物の平均寿命50年以下であったものを、200年まで長寿命化することができる。建設の関わる建設資材、建設そのものおよび解体と廃棄物処理のCO2排出量は、日本における全CO2排出量の約20%である。従って、建物の長寿命化はCO2削減の大きな武器になりえる。私は、この研究開発をさらに実用化に向けて展開させると共に、日本工学会の場を通して、一般の方や研究者、技術者に広くこの「あり方、考え方」を啓蒙していきたい。</p>
氏名	森 祐行
認定時の所属	九州大学
抱負	<p>最近、円高不況という文字の前に「未曾有の」という形容詞をつけた報道がなされているが、果たして未曾有なのだろうか？そうではないと思う。私たちは1985年に1ドルが80円という円高を経験している。当時、私が共同研究をしていた鉱山関係の企業も円高で苦境に立たされた。私たちはそれを乗り切るための技術開発に力を注いだ。同じような苦境は円高だけでなく、オイルショックでのエネルギー問題や公害による環境問題でも同じ経験をしている。今こそ、これら過去の経験を現在に生かすための具体的な行動を起こすべき時ではないかと考える。</p> <p>私は「過去を生かそう、明日の歩みに」という考えに基き「青空博物研修圏」構想を発表した。これに応える形で「軍艦島を世界遺産にする会」の運動が本格化した。それをマスコミや行政が応援し、長崎港外の端島炭鉱跡地である軍艦島が脚光を浴びることになった。それが他にも広がり、2008年9月には「九州・山口の近代化産業遺産群」を文化庁が世界遺産国内暫定一覧表に掲載することを決定した。</p> <p>軍艦島が脚光を浴びることにより長崎県の島にある池島炭鉱も注目されることになった。同炭鉱は研修炭鉱として海外の炭鉱技術者の研修事業を行っているが、高等学校の修学旅行生や社会人も受け入れ、坑内見学や技術紹介を行っている。これは若い修学旅行生には得がたい経験として好評を博している。</p> <p>池島における次のプロジェクトとして、私は「池島炭鉱の産業遺産を利用した防災研修センターの創設」を提案している。地下鉄の火災に対する防災訓練を池島の坑内で行うことができる。ビル火災の防災訓練も池島の無人ビルで実際に体験することができる。ここで、本プロジェクトを産み出すには、機械、電気、土木、建築、材料、プロセス、総合工学、各分野の専門家を結集した日本工学会の応援が不可欠である。私は日本工学会フェローの一員として本プロジェクトを産み出すことにより社会貢献を果たしたいと願っている。</p>
氏名	任 福継
認定時の所属	徳島大学
抱負	
氏名	若松 貴英
認定時の所属	京都大学
抱負	